

令和5

小論文 B

〔180点
50分〕

注意事項

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
- 2 この問題冊子は、白紙を除いて、4ページあります。
試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせなさい。
- 3 解答は、〔令5 解答用紙〕に記述しなさい。
- 4 試験終了後、問題冊子は持ち帰りなさい。

次の文章を読んで、後の問い（問1～問4）に答えよ。

厚生労働省「令和3年簡易生命表」によると、日本人の平均寿命は、男性が81.47歳、女性が87.57歳である。この値は、国際的にみても高い。しかしながら、国民の食生活においては、「食」の海外への依存や生活習慣病の増加等、課題がみられる。

生活習慣病とは、2型糖尿病、循環器疾患、一部のがん（悪性新生物〈腫瘍〉）等の疾患をさす。つまり、食習慣、運動習慣、休養、喫煙、飲酒等の生活習慣が、発症・進行に深く関与する疾患群である。生活習慣病は、日本人の死因の約半数を占める。さらに、様々な合併症を引き起こすことから、予防が重要な課題である。予防には、発症する前からの健康教育が重要である。児童・生徒を対象とする健康教育において、学校教育の果たす役割は大きい。

問1 図1は、日本の食料自給率の変化を示したものである。この図から読み取れることを具体的な数字を挙げながら、75字以内で説明せよ。[30点]

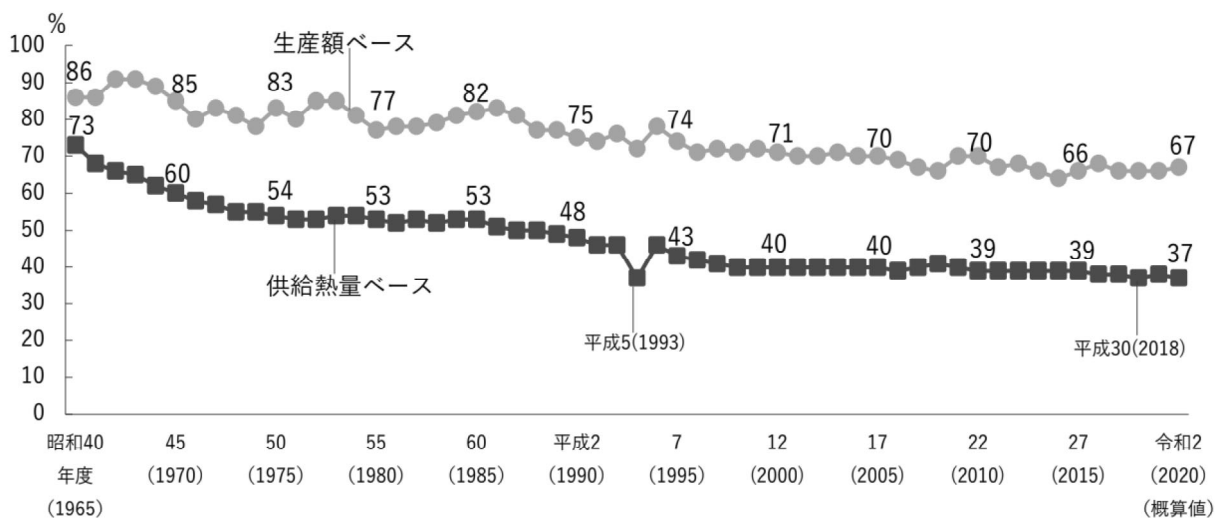


図1 我が国の総合食料自給率

(注) 生産額ベースは国民に供給される食料の生産額（食料の国内消費仕向額）に対する国内生産の割合を示す指標、供給熱量ベースは国民に供給される熱量（総供給熱量）に対する国内生産の割合を示す指標である。

[出典] 農林水産省「令和3年度食料・農業・農村白書」

問2 図2を参照し、空欄(a)～(c)に適切な語句を埋め、下の文章を完成させよ。

[30点]

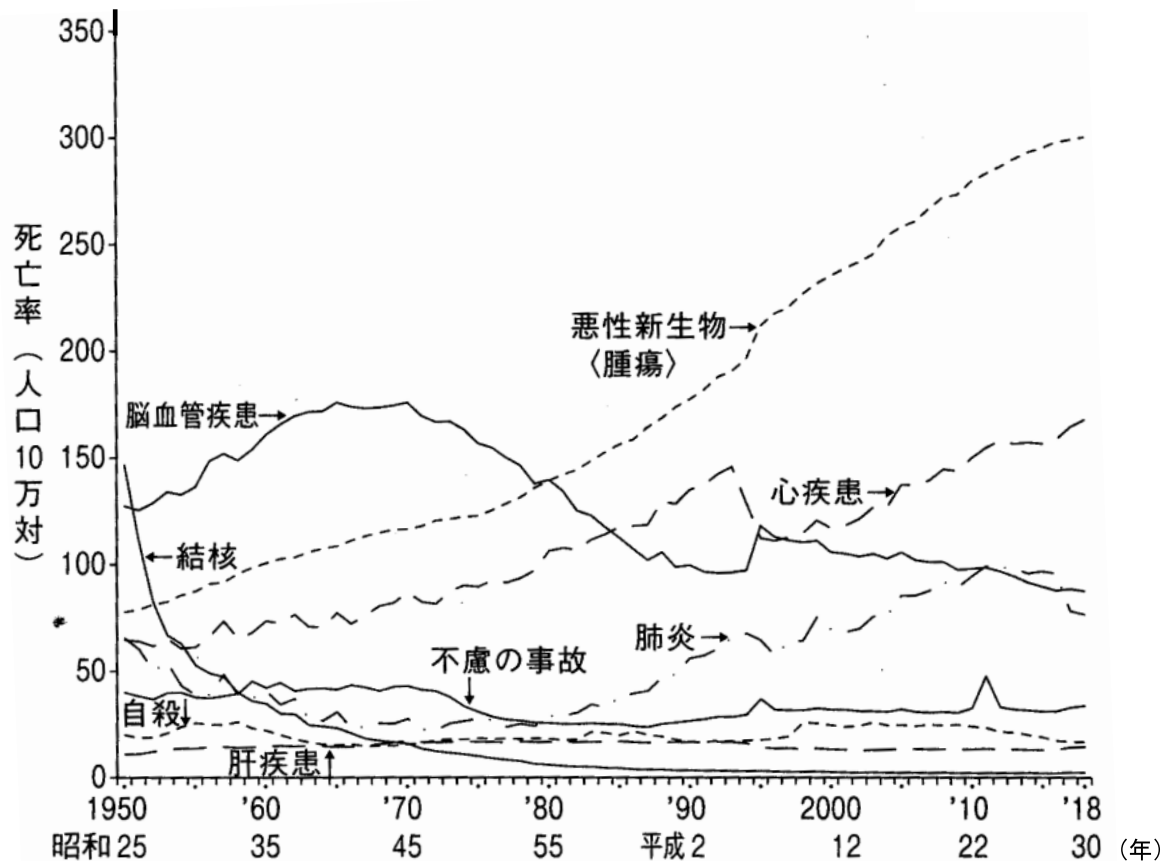


図2 主要死因別にみた死亡率（人口10万対）の推移^(注)

(注) 死亡率は「人口10万人のうち何人死亡したか」の一年あたりの値である。つまり図の縦軸の上限は、100%ではなく、10万人である。

[出典] 厚生労働統計協会「国民衛生の動向2019/2020」（一部改変）

昭和25(1950)年以降、(a)による死亡率が大きく減少し、多くを占める疾患は(b)になった。つまり、死亡構造の中心は感染症から生活習慣病へと大きく変化した。しかし、(b)は昭和45年以降、着実に減少し、昭和55年以降は(c)の割合が最も高くなった。

問3 図3は、国民一人・一日当たりの供給熱量の構成の推移を示したものである。後の文章を参照しつつ、生活習慣病予防の観点から、図3より読み取れることを、200字以内で述べよ。[60点]

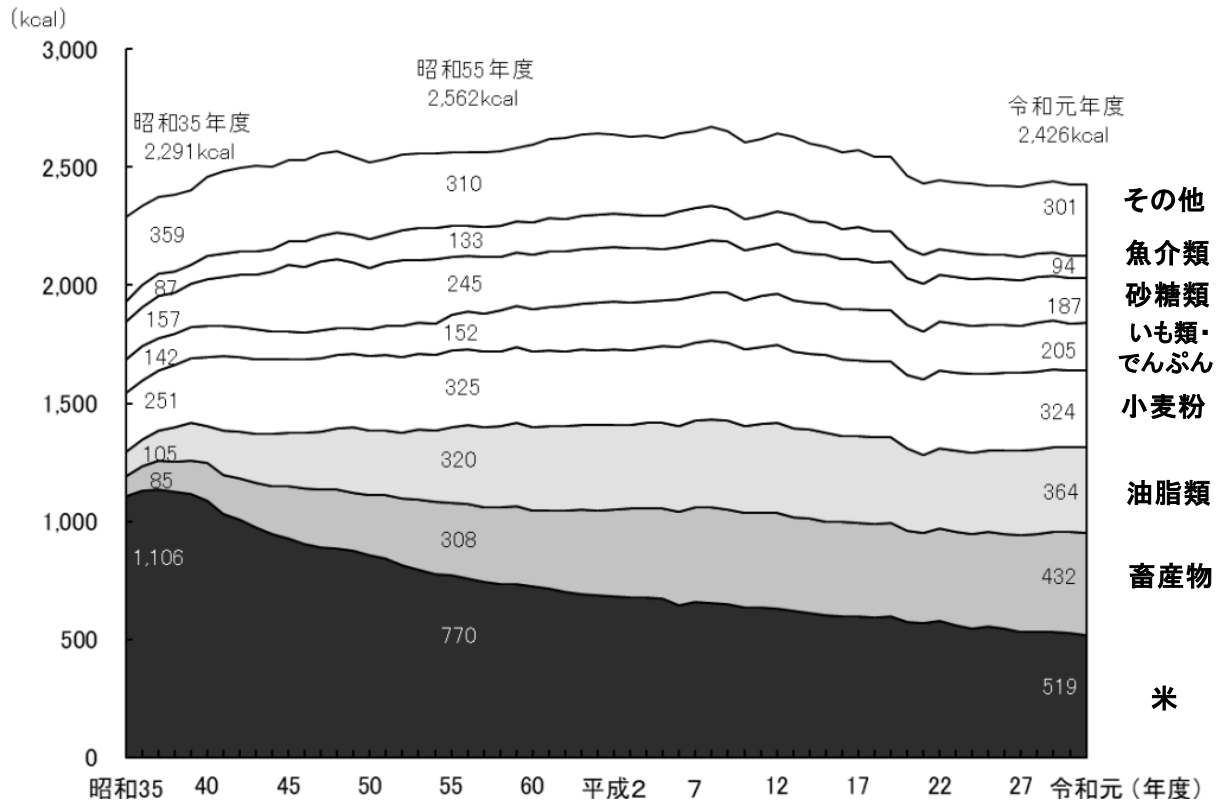


図3 我が国の国民の食生活の変化

(国民一人・一日当たりの供給熱量^(注)の構成の推移)

(注) 一人・一日当たり供給熱量は、一人・一日当たり供給数量に当該品目の単位当たり栄養成分量(熱量、たんぱく質、脂質)を乗じて算出している。算出された食料の供給数量及び栄養量は、消費者等に到達した食料のそれであって、国民によって実際に摂取された食料の数量及び栄養量ではない。

[出典] 農林水産省「令和元年度食料需給表」(一部改変)

食事における予防では、各栄養素の摂取量に十分配慮した上で、PFCバランス^(注)を適正にすることが望まれる。日本におけるPFCバランスは、昭和55年頃に理想的な値となった。つまり、米を中心とした水産物、畜産物、野菜等多様な副食から構成されるようになった。この栄養バランスに優れた食生活を「日本型食生活」という。しかしながら、近年は食生活の変化に伴い、脂肪エネルギー比率が増加傾向にある。

(注) エネルギー産生栄養素のバランス、つまり、エネルギーを産生する栄養素、すなわち、たんぱく質、脂質、炭水化物が総エネルギー摂取量に占める割合のことを意味する。PはProtein、FはFat、CはCarbohydrate。

問4 あなたは将来教員として、児童・生徒に対し、どのような健康教育を行っていきたいか。180字以内で述べよ。[60点]